

耐震化後回し

八月に静岡県の一部地域で震度6弱を観測した地震では、静岡市で駿府城跡の石垣が崩落したのをはじめ、県内各地の史跡や建造物に被害が相次いだ。国や地域の「宝」を巨大地震から守り、次世代に受け継ぐため、文化財の地震対策の必要性が浮き彫りになった。だが、人命にかかわることの少ない文化財は地震対策が後回しになりやすい。費用負担の大きさに被害が相次いだ。国や地域の「宝」を巨大地震から守り、次世代に受け継ぐため、文化財の地震対策の必要性が浮き彫りになった。

毎月1日は東海地震特集

備える その84「文化財の保護」

静岡県教委文化課によると、今回の地震で被害を受けた指定文化財、埋蔵文化財、登録文化財は約二十件。そのうち建造物は二件を占める。牧之原市では、石造宝塔として県内最古

静岡 地震で被害複数

とされる県指定文化財「平田寺多宝塔」が宝二条城など全国でも数物庫の中で半壊。高さ約一五メートルの石が積み重なったおのり、揺れにより崩れ落ちた。竹中智厚住職は「どこまで修復できるか」と気をもむ。

無人多く工事は巨額

でも所有者に負担がかかる。その負担を減らすことが耐震化を進める上で重要だ」と補助制度の充実などを求めた。



崩れ落ちた駿府城の石垣＝静岡市で



石の上に乗っかっているだけの掛川城御殿＝静岡県掛川市で

診断だけで数百万円

文化庁が二〇〇七年、全国の重要文化財四二五棟を対象に耐震診断を実施した。その結果、耐震診断を実施したのち、耐震化が進まない理由の一つに、工事前の耐震診断にも多額の費用がかかることが挙げられていた。文化庁によると、国指定なら国から補助金が出るが、五割の国庫補助が得られる。文化財の耐震化が遅れているのは東海三県、名古屋圏といずれも似たような状況にある。

各自治体 「自己負担工事少ない」「建造物の強度計れず」

愛知県にある国指定重要文化財(建造物)百四十四棟のうち、耐震診断を実施したのは十棟にすぎず、工事まで進んだのは三棟。県教委文化財保護室は、文化庁が一定の費用を負担する所有者診断支援事業を来年度から始めたい意向で、準備を進めている。しかし県指定文化財とすると「国の文化財の診断の準備で手いっぱい」「(同等)。県独自の耐震診断指針はない、市町村は八十三棟のうち耐震診断したのは



修学旅行生ら大勢の参拝客にぎわう清水寺の参道＝京都市東山区で

京都・清水寺 自警へ意識高く

僧侶と住民で`救出、組織

「森副団長」という。市消防局も近くに千五百立方メートルの防火水槽二基や消火栓の整備を進める。市東山消防署予防課の佐野新課長は「大災害時は住民自らが寺を含めた街区を守るようにする」と狙いを説明する。観光客でいっぱいになる土産物店の奥で、団員の一人の梅月一永さん(五七)は「一日一から避難時の案内や救急車の誘導もしている。いざというときも大丈夫だ」と自信をみせた。(増村光俊)

NTT西日本
毎月1日[00:00~24:00]は体験デー。
災害用伝言ダイヤル
171
●171をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行ってください。●加入電話、公衆電話、ひかり電話から利用できます。●携帯電話等、他通信事業者の電話からの利用は、各通信事業者にお問い合わせください。●伝言の録音文は再生する電話番号までの通話料がかかります。●体験利用時の伝言保存期間は最長6時間です。●本サービスはNTTコミュニケーションズが提供するサービスですが、災害発生時には、NTT東日本、西日本が運用します。
http://www.ntt-west.co.jp/dengon/
詳しくは、局番なしの「116」へ
受付時間 9:00~17:00 土・日・祝日も受付中
(年末年始12/29~1/3は除く) 審査08-2966-21



三輪新次・2級建築士(松阪市)

真つ白な外壁の木造二階建て住宅。キッチンと一体になったリビングには大きな窓から陽光が降り注ぐ。「元は築三十年以上の土壁の家だった。一年半前に実家を耐震改修した三輪新次さんの二級建築士三輪新次さん(四七)は笑顔をみせた。「水回りは古くて使

不要な壁除いて筋交い



筋交い部分を外に出して室内を開放的な雰囲気にした三輪さん宅

い勝手が悪い、仏間強し、腐っていた浴室とか使わない部屋もある。敷居をなくしバリアフリーにしたい。は耐震補強用の金物で実家と弟と暮らす母由紀子さん(六八)から建て替える相談されたのが、ぶさった土壁根は土をさっかけた。今ある柱をできるだけ生かし、不要な壁は取り除く形で耐震化を図り、間取りを一新した。骨組みだけになった家をくまなく点検。出。約四カ月で現代的な家を生まれ変わった。三輪さんは、改修のむづろ点を説明。何となくは効果的だ。三輪さんは、改修のむづろ点を説明。何となくは効果的だ。三輪さんは、改修のむづろ点を説明。何となくは効果的だ。

残したいものは残した方がいい」と言う。三重県は本年度から、全体の耐震補強工事に加え、補強設計や部分的な簡易補強工事への補助も始めた。三輪さんが勤める会社の上司で、自治体の無料耐震診断に協力する二級建築士中西勇さん(四七)は「改修時に補強断を受け、自分の家の弱いところを知ってほしい」と勧める。(平井一敏)